

## 第4章 市の地理的、社会的特徴

### 第1節 地形

#### 1 地理的条件

松原市は、大阪府のほぼ中央に位置し、大阪市や堺市、羽曳野市、藤井寺市に接している。市域は東西約5.8キロメートル、南北約5.1キロメートル、面積約16.66平方キロメートルで、ほとんどが平坦地な地形である。

人口	129,077人（平成18年3月31日現在）			
面積	16.66km <sup>2</sup>			
標高	4.7m～34.7m（TP*）			
範囲	東西	約5.8km	南北	約5.1km

\*TP：東京湾平均海水面

#### 2 地質構造

本市の地形は、大きく中位段丘面（泉北台地、河内台地）、低位段丘面（河内台地）、谷底平野・はん濫平野（大和川低地）に分けられるが、非常に平坦な地形となっている。これは、市域の地表面を構成するたい積物がせいぜい15万年前（地質時代では第四紀更新世に該当）のたい積であり、隆起・侵食といった大きな地形の変化を受けるほど時間が経過していないことに起因するものと考えられる。

##### (1) 中位段丘面の形成（更新世＝洪積世：15万年前～10万年前）

現在市域に広く見られる泉北台地、河内台地等の中位段丘面は、地質年代の第三紀更新世（洪積世）、すなわち15万年前～10万年前にたい積した扇状地面であるといわれている。この扇状地面にたい積物となる砂れきを運んだのは、現在の河床よりも数m～十数m高い位置を流れていた、西除川、東除川である。

##### (2) 低位段丘面（沖積段丘面）の形成（ウルム氷期～完新世＝沖積世前半期：約3万年前～約6000年前）

中位段丘面（扇状地面）形成後、しゅう曲や断層に伴う地盤変動、気候変化に伴

う海面変動の影響により、上記の扇状地面は下へ刻み込む侵食（下刻）の作用を受けることになる。西除川、東除川は旧扇状地面を北流し、侵食しながら谷底平野を形成していった。これが中位段丘の形成及び低位段丘面（沖積段丘面）の形成である。このような作用は、ウルム氷期初期にあたる約3万年前から完新世（沖積世）前半期に当たる約6000年前に進行したと推定されている。

- (2) 低位段丘（沖積段丘）の形成＝谷底平野・はん濫平野、自然堤防の形成（完新世＝沖積世前半期以降：約4500年前～）

低位段丘面が形成された後、更に下刻が進み、低位段丘面は侵食作用を受けて段丘化した。これが低位段丘（沖積段丘）の形成である。以降、最も新しい地形面としてははん濫平野・谷底平野、自然堤防等の形成が進み、現在の地形が形成されていった。

### 3 河川

河川は大和川であるが、奈良県に源を発し、金剛山地と生駒山地の間を流れて府内に入り、藤井寺市、柏原市で石川と合流し、八尾市、松原市、大阪市、堺市との間を縫って西に流れ大阪湾に注いでいる。市域におけるその他の主要な河川には西除川、東除川がある。

### 第2節 気候

本市の気象は、西日本でも比較的雨量の少ない部に属し、年平均分布状況をみると、平地で1,200～1,300ミリメートルであり、夏季の6月～9月に雨量が多いが、8月の雨量がその前後と比較して少なくなっている。時期的には、6月下旬を中心とする梅雨、9月下旬を中心とする台風時に集中して降る傾向である。

風の影響は比較的少なく、風向は、おおむね春、秋には北ないし北東から、夏、冬には西ないし、南西からの度合いが大きい。

第1編第4章市の地理的、社会的特徴

**(気象概況)**

	平均海面気圧	平均相対湿度	平均雲量10分比	平均風速	最大瞬間風速
平成15年度	1015.0 hpa	66.0 %	7.1	2.5 m/s	25.7 南南西
平成16年度	1015.3 hpa	63.0 %	6.5	2.6 m/s	31.7 南南西
平成17年度	1014.4 hpa	62.0 %	6.9	2.6 m/s	23.5 南南西

資料：大阪管区气象台

**(平均気温)**

	平均	最高	最低
平成15年度	16.9	35.5	-2.7
平成16年度	17.9	36.4	-2.2
平成17年度	17.0	37.0	-1.2

資料：大阪管区气象台 単位：℃

**(降水量)**

	合計	最大1時間雨量
平成15年度	1528.5	31.5
平成16年度	1594.5	40.0
平成17年度	909.0	36.0

資料：大阪管区气象台 単位：mm

**(日照時間)**

	合計
平成15年度	1822.6
平成16年度	2243.8
平成17年度	2098.3

資料：大阪管区气象台 単位：時間

### 第3節 人口分布

#### 1 人口の動向

本市の人口は、平成18年3月31日現在において、129,077人、昭和30年市制施行当時の人口36,258人の約3.58倍となっている。

大阪市近郊のベッドタウンとして都市化の波にのり、市制施行以来人口は急速な伸びを示し、昭和44年8月には10万人を突破、年間1万人を越す状況を呈したが、翌45年をピークに人口の伸びも鈍化し、昭和52年からは定着化してきている。

#### 2 外国人登録者数

本市の外国人登録数（平成18年3月31日現在）は、1,401人となっている。これを国籍（出身地）別にみると、最も多いのは、韓国・朝鮮で、724人（51.7%）、次いで中国の482人（34.4%）、ブラジルの58人（4.1%）、フィリピンの42人（3%）、インドネシアの16人（1.1%）などとなっている。

### 第4節 道路の位置等

#### 1 主な自動車専用道路

阪神高速道路は、大阪市中心部の環状線を中心に、神戸線が府県境を越えて神戸市へ、湾岸線が同じく神戸市及びびりんくうタウン（泉佐野市）まで伸びているほか、大阪空港及び池田方面、守口、東大阪、松原、堺の各方面へと放射状の路線があり、いずれも阪神高速道路株式会社が管理している。

西日本高速道路株式会社の管理する高速道路のうち、近畿道は府中央部南進して阪和自動車道路と直結し、和歌山市方面及び関西国際空港方面へ伸びている。また、近畿道及び阪神高速道路と直結する西名阪自動車道が、奈良県へ伸びている。

ほかに、市内と奈良県を結ぶ路線として、南阪奈道路がある。

## 2 主な一般道路

- (1) 国道309号
- (2) 府道（主要地方道）
  - ア 大阪中央環状線（府道2号線）
  - イ 堺大和高田線（府道12号線）
  - ウ 大阪狭山線（府道26号線）
  - エ 住吉八尾線（府道179号線）
  - オ 大堀堺線（府道187号線）
  - カ 郡戸大堀線（府道188号線）
  - キ 我堂金岡線（府道192号線）

## 3 自動車保有台数

平成16年末現在、市内で約71,600台の自動車が保有されており、その内訳は、乗用車自動車が約33,700台、トラック約5,700台、バス約130台、特殊用途約1,400台、大型特殊約140台、軽自動車約16,400台、小型特殊約220台、原動機付自転車（125CC以下）約12,800台、小型二輪（250CC超）1,100台となっている。（松原市財政部課税課調べ）

## 第5節 鉄道

### 1 鉄道

- (1) 市域を通る鉄道路線には、近畿日本鉄道南大阪線が都心部と約10分で結ばれ、通勤・通学の輸送を担っている。
- (2) 駅  
市内の鉄道駅の中で最も乗降客数が多い河内松原駅で、約15,990人（1日あたりの延べ人数。以下同じ）が利用しており、河内天美駅（約9,293人）、高見の里駅約3,684人）、布忍駅（約3,100人）である。（近畿日本鉄道株式会社調べ。  
資料「平成16年度 松原市統計資料」）。

## 2 バス

本市では、近畿日本鉄道の系列バス事業者である近鉄バスと南海電鉄バスが営業運行している。

### 第6節 主な施設等

#### 1 中高層建築物

本市には、3階以上5階以下の建築物が637棟、6階以上15階以下の建築物が120棟、11階以上の建築物が24棟ある。市内最高階数15階建てが2棟、市内最高高さフジモトメディアコビル（49.3m）などがある。

#### 2 生活関連等施設

本市には、水道に関する施設として、上下水道部が所管する丹南浄水場、阿保浄水場及び天美我堂配水場がある。

なお、本市に石油コンビナートや原子力施設、自衛隊施設は存在しない。